

☆ 子どもの「自己有用感を育む」という視点から日常の教育活動を振り返ってみましょう。

私たちが日頃取り組んでいる活動について、子どもが「安心感」「一体感」「達成感・充実感」を得ているかという視点から振り返り、以下の枠に整理して職場の仲間と意見交換してみましょう。

ステップ1 活動の「ねらい」 ～目指す子どもの姿 どんな子どもの姿を期待しますか～

ステップ2 活動の概要 ～子どもはどんな活動を、教師の関わりは～

ステップ3 活動の「工夫」や「留意点」 ～活動のなかで大切にしたいこと（したこと）～

ステップ4 活動の成果 ～活動を通した子どもの姿や変化～

授業、行事、クラブ、清掃などの活動場面を取り上げ、共有したい取組は学年等で始めてみましょう。

☆ 子どもの「自己有用感を育む」リーフレットの活用について

生徒指導総合対策会議では、これまで子どもの不登校への対応やいじめ防止、自殺予防など早急に取り組むべき個別の生徒指導上の課題について、その支援や対応策等を提言してきましたが、その中で、様々な要因から自信をなくし、不安を抱え、自分や他者を肯定的に受け入れられない子どもたちの姿が見えてきました。

そこで、今回はそれらの課題の未然防止に共通する視点から「自己有用感」を取り上げ、授業や学級、特別活動における、子どもの「自己有用感を育む」リーフレットを作成しました。

子どもが学校生活の中で「安心感」「一体感」「達成感・充実感」を得るためには、教師がどんな場面で、どのような働きかけや工夫を行えばよいのか、日常の教育活動を「自己有用感を育む」という視点から見つめなおしてみましょう。

子どもの「自己有用感を育む」リーフレット

認め合い 支え合う
関係づくり



子どもの「自己有用感を育む」という視点から日常の教育活動を見つめなおしてみませんか？

- ◆「ここに居ていい」「独りではない」など、子どもが「安心感」を得ていますか？
- ◆「みんなで協力したから」「仲間と一緒に」など、子どもが「一体感」を得ていますか？
- ◆「できた」「すがすがしい」など、子どもが「達成感・充実感」を得ていますか？

自己有用感とは

「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」など、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価のことです。

（文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 生徒指導リーフ Leaf.18 より）

◎ 授業での取組を考えてみましょう。

子どもが「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」などと感じ、「自己有用感」が育まれるのは、どんな場面なのでしょう。

授業を通して、すべての子どもが「安心感」「一体感」「達成感・充実感」を得られるよう日頃の取組について振り返ってみましょう。



【チェックポイント】

- すべての教師と子どもが、お互いに笑顔で「あいさつ」を交わしていますか？
- 教師自ら「自他を尊重する姿勢」や「規律ある行動」を示していますか？
- 子どもが、「望ましい人間関係づくり」に取り組む機会を設けていますか？
- すべての子どもに「活躍できる場面」がありますか？
- 子どもが安心して授業を受けられる環境の工夫や、つまずきへの手だてがありますか？
- いつもと様子が違う子どもや普段目立たない子どもに声を掛けていますか？
- すべての子どもに役割があり、「あたたかい言葉」で感謝を伝えていますか？

◎ こんな取組が行われています。

安心感を育む活動例

仲間の「いいところ発見！」探偵団

県内小学校での取組

- 仲間の「いいところさがし」の活動をひと工夫し、アットランダムにペアを決め、子ども同士で気づかれないように1週間観察する。

〇〇くん、休み時間の後、みんなで遊んだボールを片付けてくれたよ。



- 発見したペアの「いいところ」をカード（付箋）に書いて交換し「いいところ発見」シートに貼り、自分の感想を記入してクラスで伝え合う。

活動のポイント

- ・ 子どもがペアになった仲間の目立たない「いいところ」を発見することに積極的に取り組めるようにする。
- ・ ペアを替え繰り返し活動を行う中で、認められている自分を感じたり、仲間を認める心地よさを感じたりすることでクラス内に安心感が生まれる。



シートへの感想記入

子どもの姿・教師の姿

- ・ 自分のことを見ていてくれるワクワク感で、子どもは毎日楽しそう。
- ・ 仲間が発見した子どもの「いいところ」を家庭に伝えたところ、家族からも認められ、自信となっていく様子が感じられた。
- ・ 子ども同士が発見したお互いの「いいところ」は教師自身にとっても貴重な気づきとなった。

<日々の授業でも>

- 授業中の仲間の発表や活動に対してもクラス全体で「いいところ」を見つけようと注目する雰囲気期待できます。
- 自分の「いいところ」を発見してくれた仲間の様子が気になり、仲間が困っている場面では声を掛ける姿につながります。

一体感を育む活動例

一日の感謝は『サンキュー1組(391瓶)』

広徳中学校 3年生の取組

- 短学活の時間に一日の活動を振り返り、仲間へ感謝したい出来事があった時にはクラスの前で内容を説明し「ありがとう」「助かったよ」など感謝の気持ちを言葉で伝える。

〇〇さん、今日は私の代わりに委員会に出てくれてありがとう。



- 感謝の気持ちを伝えた仲間と伝えられた仲間が、ガラス瓶（391瓶）に「ビー玉」を入れ、クラスみんなで拍手をする。

活動のポイント

- ・ 全員が参加できるよう、教師も生活ノートなどで「ありがとう」の関係が生まれている生徒同士を個別に支援する。
- ・ クラスの取組が自分たちに分かるように工夫をする。（ガラス瓶、ビー玉、ビー玉を入れた時の音、拍手、ありがとうの感謝の声、等）



仲間とビー玉を投入

子どもの姿・教師の姿

- ・ 普段あまりしゃべらない仲間から「ありがとう」と言われ、照れくさそうだけど嬉しそうなお表情が見られた。
- ・ ガラス瓶の中のビー玉の数が増えることは、取組の積み重ねが目に見えて取組を継続する原動力となった。
- ・ 生徒が文化祭のクラス展示の中央スペースに「391瓶」を飾り、生徒が誇らしげに取組を紹介していた。

<日々の授業でも>

- グループ学習などの導入がスムーズに行われるようになり、学習を進める中で教え合い、助け合う活動が期待できます。
- どの授業でも、1時間の終わりに「サンキュー活動」を生かそう。認め合いが活発になれば、授業への意欲にもつながります。

達成感・充実感を育む活動例

必要とされる人、場所へ出動『コマレンジャー同好会』

駒ヶ根工業高校の取組

- コマレンジャー同好会は、「ご当地ヒーロー」として社会貢献を意識した活動を積極的に行っている。
- 県警のサイバーボランティアとして小中学生にスマホの安全な利用の呼びかけや、親子紙飛行機教室のボランティアをするなど、活動を広げている。

活動内容や場所が広がっていくのも楽しみだね。



活動のポイント

- ・ 地域のために、生徒が中心となって「何ができるか」を考える場を設定する。
- ・ 自分たちが生活している身近な社会、地域に目を向けた活動となるように教師がサポートする。



スマホキャラバンの場面

子どもの姿・教師の姿

- ・ 人に「感謝される」経験の積み重ねが次の「出動」への意欲につながっている。
- ・ 校内で活動が紹介されたことで、仲間や教師からの関心も高まり、その様子を聞かれる場面も見られた。
- ・ 自分たちの活動が人に「感謝される」ことで達成感・充実感を得て、自信を持った生徒が活動を更に広げようとしている。

<日々の授業でも>

- 仲間の発表や活動に着目し、達成できた時の喜びを自分の事のように共感し、認め合う活動の活性化が期待できます。
- 生徒が主体となった活動に対して、他者から感謝される等の評価を受けるしくみづくりは、学習意欲の向上にもつながります。

☆ 子どもから「ありがとう」の言葉が聞かれたのは、いつ、どんな場面でしたか。「ありがとう」が生まれた取組を振り返ってみませんか。

そこに自己有用感を育むヒントがあります！